



あなたの笑顔が続くまちに

警察庁が発表した統計資料によると、昨年千葉県は都道府県別の交通事故による死者数が、全国ワースト1位になってしまいました。平成26年から昨年までの6年間の統計でも、千葉県は全国ワースト5位以内に位置しています。

悲惨な事故をなくすために、私たちに何ができるのでしょうか。

急速な発展を遂げた日本の交通事情

近年の日本の交通事情は目覚ましく発展しています。より効率的に人や物を運ぶため自動車が広く普及し、これに伴う道路整備などが進められてきました。

そのような中、昭和45年には交通事故死者数が1万6、765人を記録し、昭和23年の統計開始以降、最多となりました。その後さまざま交通安全対策などが行われ、令和元年には死者数が3、215人に





年別交通事故死者数 単位：人

	全 国	千葉県	旭 市
昭和23年	3,848	—	—
昭和33年	8,248	151	7
昭和43年	14,256	511	23
昭和53年	8,783	322	12
昭和63年	10,344	456	6
平成10年	9,214	404	6
平成20年	5,209	225	4
平成30年	3,532	186	4
令和元年	3,215	172	6

〈出典〉全国：警察庁「平成30年中の交通事故の発生状況」 千葉県・旭市：旭警察署 ※平成10年以前の旭市の人数には、干潟地域の数値が含まれません。

まで減少しています。

車社会の新たな課題

交通事故による死者数は減少していますが、高齢社会を迎え新たな課題も見えてきています。

警察庁が発表した統計資料によると、平成30年には全国で約8、230万人が自動車の運転免許を保有していて、その内65歳以上の高齢者が22・6%を占めています。年々その割合は増加傾向にあり、団塊の世代が75歳以上になる令和7年ころには、高齢ドライバーが最も多くなるといわれています。

最近では高齢ドライバーによる重大な事故が、テレビや新聞などで大きく取り上げられています。同乗者や歩行者として巻き込まれる事故も多く、高齢者による事故が全国的に注目されています。この問題は、いづれ高齢者となる若い世代にとっても、無関係な話ではありません。

私たちの生活を快適にしてくれる車ですが、もし運転操作を誤れば走る凶器にもなってしまいます。高齢者が車をいつまでも安全に運転するためには、どのようなことに気を付ける必要があるのでしょうか。そして悲惨な事故をなくすために、私たちはこれからどのように車と付き合っていけばよいのでしょうか。